

## 第 8 回 十勝川外減災対策協議会 議事概要

日時：令和 3 年 7 月 5 日（月）14:30～16:30

会場：帯広第 2 地方合同庁舎 3 階 災害対策室

委員：30 名

帯広開発建設部長、北海道十勝総合振興局長、北海道十勝総合振興局副局長、釧路地方気象台長、帯広市長（副市長）、音更町長（副町長）、士幌町長、上士幌町長、鹿追町長、新得町長（副町長）、清水町長、芽室町長（副町長）、中札内村長、更別村長、大樹町長（総務課長）、広尾町長、幕別町長（副町長）、池田町長、豊頃町長、本別町長、足寄町長、陸別町長、浦幌町長、北海道警察釧路方面本部警備課長（災害課長補佐）、帯広警察署長（※）、池田警察署長（※）、本別警察署長（※）、新得警察署長（※）、広尾警察署長（※）、陸上自衛隊第 5 旅団司令部第 3 部長（航空運用幹部）、とちあち広域消防局（消防局次長）、日本放送協会帯広放送局長、北海道旅客鉄道株式会社執行役員釧路支社長（企画次長）、北海道電力株式会社新得水力センター所長、電源開発株式会社東日本支店上士幌電力所長

※括弧内は代理出席

※北海道警察は、代表者のみの出席

### < 議事内容 >

- ・ 幹事会の報告について
- ・ 次期（R3～R7）取組方針（案）について
- ・ 取組方針に基づくフォローアップについて
- ・ 今後のスケジュールについて
- ・ 情報提供
- ・ 意見交換

### < 協議会における発言要旨 >

#### ■ 開会挨拶

開発建設部長 近年、洪水が続いており、今年度も静岡県熱海市で豪雨に伴う土砂災害が発生するなど、毎年のように水害が発生しています。十勝においても、平成 28 年の水害は記憶に新しいところです。

本協議会は、「十勝川流域外河川の減災に関する取組方針」に従って、各機関において各種の取り組みを進めており、今回は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、テレビ会議による開催ではありますが、皆様からのご意見を承り各機関の万全な防災対策の構築に努めたいと思います。

## ■意見交換（各機関の取組）

北海道警察 広尾町と広尾警察署における災害拠点施設の協定締結ですが、昨年10月23日に、大規模災害が発生した場合に警察署の庁舎に著しい機能の障害が生じた場合の警察活動の拠点施設とさせていただく目的で、広尾町さんが所管されています、集会場をご使用させていただくという協定を締結させていただきました。

災害発生時に、人命救出救助活動の他に交通規制、避難誘導をみなさんと協力して行いながら、まずは人命の安全確保を第一にして活動させていただいております。

その中で拠点となります、警察署等の施設が損壊した場合、警察無線が使えない、指揮機能がとれなくなり現場に情報が流せない、適切な災害警備活動がとれない等を懸念しております。

今回の広尾町さんとの協定につきましては、万が一の発災時には適切な活動にむけて役立てることができる取り組みと理解しております。

幕別町 幕別町では現在54件の防災協定を締結しております。

食料物資の供給をはじめ医療救護、設備復旧、輸送などの45件の他に、避難場所確保を目的とした協定を9件締結しております。帯広市に隣接している札内市街は、札内川、途別川、十勝川の3つの河川に囲まれております。

町の洪水ハザードマップでは、多くの区域が0.5メートル未満、あるいは0.5メートルから3メートル未満の浸水区域に想定されております。新型コロナウイルス感染対策を施した避難所を運営するにあたり、分散避難の必要性を生じたことから、家族単位での車中避難の避難場所として、浸水の恐れのない高台で、且つ広い駐車場を保有する3施設にご協力をお願いして、昨年協定を締結いたしました。

この資料にありますとおり、帯広国際カントリークラブでは約400台。札内市街から若干距離はありますが十勝ヒルズでは約200台。パークホテル悠湯館では約50台の駐車が可能で、トイレの他に食堂が整っていることから水や食料の提供も可能です。

また、帯広国際カントリークラブのクラブハウスや悠湯館は、入浴施設の利用が可能なおにに加え、客室や大広間などに避難者を収容することも可能であります。

幕別町の指定避難所においては、ペットを同伴しての避難はできませんが、こうした大規模な駐車場を有している施設においては、ペットと一緒に車中避難を行うことが可能と考えております。

陸別町

昨年開催いたしました福祉施設との連携対応訓練について、事例報告をいたします。

陸別町では、平成26年以降3年に1度、関係機関を交えた総合防災訓練を実施しています。

令和2年3月に、町内の社会福祉法人と福祉避難所の指定に関する協定を締結し、同法人が管理する3施設を新たに福祉避難所として指定したことから、福祉避難所との連携対応をテーマに訓練を実施する運びとなりました。

また、一方で新型コロナウイルスの感染拡大は、避難所の感染症対策という新たな課題を生みました。

当町はこれまで、避難所設営マニュアルが未策定だった事から、これを機会に陸別町避難所設営マニュアル初動対応編を新たに作成し、避難所の設営と感染症対策を新たにマニュアル化し、これに基づいて訓練で実際に動いてみることで、マニュアルの精度を高めることを訓練の目的のひとつに位置付けて開催をいたしました。

当日は大雨洪水の想定のもと、一連の時系列の中で災害対策本部の設営訓練を行い災害対策本部と福祉施設との連絡訓練、物資輸送訓練、社会福祉法人職員による福祉避難所設置訓練、受け入れ訓練を行いました。又、並行して役場職員による避難所設営訓練と、避難者移送訓練を実施いたしました。避難者役には町内の福祉施設職員と、自治会役員、本別警察署にもご協力をいただき、述べ36名の方に参加をお願いいたしました。

避難者役の方々には、福祉避難所、町が設置した避難所に時間差をつけて参集してもらい、入り口で避難者設定カードをお渡ししました。避難者役の方々には各々すべて違う設定に基づき、発熱者役・高齢者役・負傷者役として動いてもらうことで避難所の導線・担当者の動き、用品の配置などを実践的に確認いたしました。すべての想定が終了したのちに、訓練に参加した防災会議委員・自治会役員・町職員と、参加者検討会を行い避難者目線・運営職員目線・第三者目線からのご意見・感想をいただきました。

その中には避難生活空間での情報不足の指摘や、ペット同行避難の受付方法など新たな気づきがありました。

マニュアルについては、この時のご意見、感想、実際の動きで混乱が生じた点を修正して、本年3月に本作成しました。今後はこれらのマニュアルを活用した職員研修を行うとともに、ご意見を受けた情報伝達などの手段整備に注力したいと考えております。

鹿追町

東京都台東区と鹿追町の災害時相互応援協定について報告です。

東京都台東区につきましては、以前から民官レベルでの交流が盛んでありまして、それを永年続けてきたのち、産業と環境分野で連携協定を結んで4年が経過いたしました。今回その特定分野の協定をさらに4年間延長したのですが、その際にもう少しお互いの協力体制を築いていくことができないものかということで、今回の災害時相互応援協定の締結に至ったわけです。この相互応援協定につきましては、相互の区域内において地震、防風、豪雨、洪水、その他災害が発生した時に、被災者独自で十分な応急対応等が実施出来ない場合において、被災地の応援対策等を円滑に支援するための協定ということでございます。

協定の事項といたしましては、食料、飲料水及び生活必需物資、並びにその供給に必要な資機材の提供、あるいは被災者の救助救護医療および施設の応急復旧等に必要な資機材並びに物資の提供、協定に基づき実施する応援に必要な職員の相互派遣という内容です。

距離は離れておりますけれども、それぞれ特性をもった地域ということで、こういった形で協力関係を築いていきたいと思っております。

台東区と墨田区さんとは、十勝管内18町村でそれぞれの関係人口の拡大、あるいはビジネス交流などを進める形で、昨年から2024年までということで色んな事業を展開しているところであります。

こういった形で災害の協定はもちろんですけれども、交流を続けて都市と農村地域の交流を進めていくことも非常に重要なことだと思っております。

この災害の応援協定は無期限と言う形で進めていくことになっております。

池田町

まるごとまちごとハザードマップの取り組みについてご報告をさせていただきます。

池田町は十勝川と利別川の2つの河川が流れるなど、これまでの歴史は、洪水との闘いであったといっても過言でないような町であります。

そういったことも踏まえて、これまで河川等が氾濫した場合の浸水想定図、ハザードマップについては、平成22年度からマップ単独で1回、防災のしおりという形で、防災情報に関する小冊子として2回、計3回、全世界配布などを行ってきました。

今回は、前年度に『まるごとまちごとハザードマップ』として、町内18か所の公共施設などに河川氾濫時の想定最大浸水深を掲載した看板を設置しました。多くは浸水の実際の高さに合わせて看板を設置しています。例えば、本町の十勝川と利別川にはさまれたところに利別地区という、本町においては中心的な住宅街のひとつの地区があるのですが、地区全体が浸水想定区域となっています。そのなかでも中間にある利別小学校が、想定最大浸水深が5.

3 m、一般の家庭では2階に避難しても命を守ることができないということで、洪水発生が想定される場合は、すみやかに利別川を渡って池田町の市街地の高台へ避難しなければならないという状況になっています。利別小学校ですと5.3 m ですので、2階の教室の外壁に看板が設置されているということで、平常時からそれぞれの地域の想定浸水深を視覚的に知ることができますので、万が一の場合の速やかな避難行動につながっていくと期待しているところです。

帯広市

昨年度、コロナウイルスの感染拡大下で2度、避難所開設訓練をいたしました。いずれも感染拡大を防止するということを念頭にどのような形での手順を組めば、従来の訓練と異なる、感染症の要素を入れて効果的に開設ができるかということ念頭に置いて実施したものです。

併せて、感染症の渦中で避難所を開設していくということについて、住民の方々あるいは職員を含め、その重要性について理解を深め、具体的なことについて今後改善も含めた取り組みをしていく上で、2回の実施ということが非常に実りあるものだったと思います。

ただ、実際に発生する災害の場面というのは非常に複雑なものだと思います。まして避難所の開設となりますと厳冬期というのもあり得ますし、あるいは早朝夜間など、非常に多くの要素も加わってまいります。その中で効率的に開設をして、且つ市民の方、避難して来られる方の感染症に対する懸念を出来るだけ軽減できるようにしていくための取り組みを今後とも進めて行かなければならないと思っております。

したがって、避難所の開設のための訓練というものに、より様々な観点からの現実的な想定をしながら、その時どういう役割をそれぞれの職員が果たするのかということを考え、今後更に訓練を重ねていざという時にしっかりと備えていきたいと思っております。

新得町

昨年7月と8月に行いました、避難所開設訓練についてご報告いたします。

新型コロナ感染症対策を踏まえて、避難所での感染対策の意見をそれぞれの職員が共有すること、また、課題を洗い出すことにより、避難所での感染拡大防止とスムーズな開設運営を目的に実施をしたところです。

内容としましては、講習・避難者の受け入れ訓練・避難所の設営訓練・消毒液やマスクなどの感染症対応物品の配置を確認するものです。訓練に参加した職員からは、「速やかな受付誘導をするために人員の配置を検討してほしい」「避難所の運営を考えると早めの避難所設営が必要」「避難者が共有するトイレ、流し、ごみ等の衛生対策の徹底には、ルールの周知や避難者の協力が不可

欠」「避難所をパーテーションで分けして、番号表示することによって避難者もスタッフも迷うことなく運営がしやすい」などの意見が出ていました。

今回は職員向けの訓練でありましたが、今後は住民も参加した訓練を行っていく予定です。

#### 芽室町

コロナ対策の避難所開設訓練を昨年実施しました。内容については資料に記載のとおりです。

訓練の感想としましては、一度トリアージをしたから大丈夫というものではなくて、避難所生活が長期化したことを考えて健康チェック体制、健康観察体制をどう構築してくかというのは非常に重要な視点だと思いますが、その仕組みをまだ確立できていませんので、早急に整理をしていきたいと考えております。

従来、避難所運営については地域住民の皆さんが主体に、と言ってきましたが、コロナ対策に関して、住民主体は無理でありますので、運営マニュアルと昨年の訓練の結果を踏まえて見直しをしておりますけれども、実証テストをまだ行っておりませんので、なるべく早く訓練を行ってバージョンアップをしていきたいと考えております。

また、先月26日に、ブラインド形式による対策本部訓練を行いました。訓練を通して、避難所開設の本部として判断をする時に、単純にエリアと避難所の場所ではなく、医療機関との連携体制を十分整備をした上で、避難指示、避難所開設の判断をしなければならないことが大きな課題だと捉えています。

#### 更別村

昨年、それまでの避難所開設のマニュアルがコロナ禍においては不十分と判断をしましたので、複合災害、特にコロナ禍における新型コロナウイルス感染症防止対策に配慮した避難所開設及び運営マニュアルを新たに作成しました。そのマニュアルに沿って飛沫感染予防のため必要なテント40張、ベッド80台を整備して、村職員を対象とした訓練を7月29日に実施をしました。

訓練では村職員の3分の1となる人数の約30人が参加しました。実際に避難所となる会場で、テント・ベットの設営、防護服等を装着しての体温測定・健康観察及び誘導を行いました。防護服等を装着しての体温測定及び健康観察などは特に大変でした。

これまで台風の災害等を除いて避難所の開設を経験した職員が少なかったため、今回の訓練の成果と課題を踏まえて今後、定期的な訓練、特に住民を巻き込んだ訓練が必要ではないかと考えております。

NHK

取組方針に基づくフォローアップなどに記載のある洪水予報等をプッシュ型で情報発信するための NHK ニュース防災アプリ等による防災情報の提供については、引き続き行ってまいります。

先月6月から、放送において技術的に可能となったことを一つご紹介いたします。6月2週目から L 字スーパーのローカル放送というのができるようになりました。L 字スーパーというのは緊急事態宣言下の時などにも出ていましたが、今放送している画面を縮小して、左と上に帯を出し『L』という字が上下逆さまになっていますがこれを L 字スーパーと呼んでいます。この帯に文字情報を出していくものです。

これまでは、全道ひとくくりの情報しか出せなかったのですが、この6月2週目以降は、十勝管内向けに、帯広放送局から出せるようになりました。テレビがみられる状況であれば、十勝管内の浸水地域の詳細な情報、雨量などの他、避難所情報、携帯電話の充電場所などのいわゆるライフライン情報も出せるようになりました。

災害発災当初は災害報道が中心となりますが、生活に必要な情報、ライフライン情報は、今までと違ってきめ細かくエリア毎に出せるようになりました。そのようなことが起きた場合に、我々から各市町村の皆様のところへ取材させていただく際にはご協力をいただきたいと思います。また、こういう発信ツールがあるのだということを念頭に災害時にはぜひご活用いただければと思います。

#### ■ 閉会挨拶

振興局長

災害はいつ・どこで起こるのかわからないため、自治体や関係者が備えに取り組んでいることは承知しており、最近の異常気象の下で予想だになかった災害を目の当たりにすると、改めて災害への備えが大切であると認識しています。

引き続き、水防災に関する危機意識、防災意識を高めながら万全な備えに向けて取り組みを進めてまいります。